

## 平成28年度 第55回岐阜県学校保健研究大会を終えて

山口市学校保健会



心地よい秋晴れの10月23日、山口市文化の里花咲きホールにおいて、県内外から約380名の学校保健関係者を得て、研究大会が開催されました。

岐阜県学校保健会表彰では34名の方が表彰され、学校環境衛生活動優良校表彰では31の幼稚園・小中学校・高等学校が表彰されました。

次いで、【心身ともに健康で、たくましい児童生徒の育成】～自主的に健康管理のできる子をめざして～という大会テーマのもと、二部構成で研究発表が行われました。

一部は、山県医師会、山県市食育推進会議との合同で【山県市児童の食と健康】～受動喫煙状況および行動特性と食生活との関連～が発表されました。山県市内小学校児童とその保護者を対象に実施した質問票と尿中コチニン検査から「家族に喫煙者がいる児童は、コチニン値が統計学的有意に高いこと」と「より多くのタバコの煙を吸い込んでいること」が示されました。また、受動喫煙が子どもの健康に影響を与える知識は多くの保護者が意識していることも明らかとなりました。子どもたちの健全な心身の成長のためには、食生活も同様に重要な課題であることから、家庭と学校との連携が今後也不可欠であると思われまます。

二部は、山県市養護教諭部会による【自主的に健康管理のできる子をめざして】～地域のよさを生かした、保健管理・保健教育の取組を通して～が発表されました。「願う子どもの姿」を実現するための課題を掲げ、学校・家庭・地

域・行政・三師会など関係者が連携し、指導・実践を行ってきた10年間の取組を、具体的な資料やデータを使用して発表され、参加者からは「実践内容など分かりやすく参考になった」との感想が多くありました。発表の中で山県市ならではの「うめっこ体操」を紹介し、良いタイミングで会場の皆さんと一緒にいき、リラックスタイムとなりました。

お昼のアトラクションは、伊自良北小学校の児童による「伊自良十六拍子」の演技が行われました。300年以上前からの伝統を受け継いでいくために全校児童がクラブ活動を利用して練習を積み重ねているとのこと。今回は4～6年生の児童による息の揃った太鼓の音が会場に鳴り響き、リズムを奏でる鐘の音は圧巻で、会場全体が伝統文化の世界に引き込まれました。

午後からは、岐阜大学医学部看護学科教授の西本裕先生による【小中学校の運動器検診の現状と課題】の演題で記念講演が行われました。今年度から実施されている運動器検診の取組は、日頃から複数の目で子どもを見守り、気付きを共有することで早めの対応が可能となることなど、学校関係者からは心強い講演となりました。より柔軟な体づくりのためのジャックナイトストレッチも教えていただきました。

このように、とても有意義で大変充実した大会となりましたのも、関係者の皆様の多大なるご協力とご支援の賜物と心より感謝いたします。

最後に、岐阜県学校保健教育のますますのご発展を祈念いたしまして、第55回岐阜県学校保健研究大会の報告といたします。

